（別紙様式２）
令和元・２年度「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム」（グローブ）推進事業　中間報告書

学　　校　　名

横浜市立永田台小学校
問い合わせ先：電話番号　045-714-4277

Ⅰ　学校の概要

１　児童生徒数，学級数，教職員数

（令和２年３月現在）

児童数　　466 名
学級数　　15 学級
教育員数　　26 名

２　地域の概況

学校はマンションや団地に囲まれているが、地域の方々は、花や木を植え整備士、緑で住みやすい町作りをしている。しかし、団地も年数を経て、横浜市内でも最も高齢化が進んでいる地域となっている。

３　環境教育の全体計画等

（１）環境教育の目標

自分たちの身近な環境を見つめることを通して、よりよい環境を作っていこうとする児童を育てることを目指します。

（２）環境に対する豊かな感受性の育成

自分自身を取り巻くすべての環境に関する事物・現象に対して、興味関心をもち、意欲的にかかわり環境に対する豊かな感受性をもつことができるようにする。

（３）環境に働きかける実践力の育成

環境保全のため、どのような生活様式や実践的行動をとるべきかなどを考えて行動することや、自ら責任ある行動をとり、協力して問題を解決できるようにする。

（４）環境に対する見方や考え方の育成

身近な環境や様々な自然の事物・現象の中から自ら問題を見付けて解決する力とその過程で獲得する知識と技能を身に付けることで、持続可能な社会の構築につながる見方や考え方を育む。

Ⅱ　研究主題

「永田台小学校における気温と降水量の観測」

Ⅲ　研究の概要

１　研究のねらい

「作る、できる、発表する」ことだけに満足することなく、「影響、変容、変革」を求める子どもの姿を目指す。

２　校内の研究推進体制

（１）研究推進体制

校長、副校長、教務、環境部を中心に計画・研究・情報発信を行う。

（２）観測体制

環境委員会による日々の観測は以下の通りである。

①最高気温、最低気温、現在気温の観測
②降水量の観測
③フェノロジーの観測
④校内への発信

（３）観測機器の設置状況

①百葉箱（デジタル温度計）
②雨量計
③デジタルカメラ
④記録ファイル

３　研究の内容

（１）グローブ活動の教育課程上の位置付け

①身近な環境、自然事象に目を向け、「影響変容･変革」を求める子どもの育成を図る。
②日々の観測を続けることで、世界の環境に目を向けることのできる子どもの育成を図る。

（２）グローブ活動を活用した教育実践等

６年生がビオトープの環境整備を行った。荒れ果てたビオトープを、水面が見えるように草刈りをしたり、高くなった草丈を短く切ったりした。その後ビオトープを観察し続けた。様々なトンボ、虫が見られた。記録を残し、次年度に集まる生き物を比べる基準ができた。

Ⅳ　研究の成果と第２年次に向けての課題

観測のための環境がそろった。器具の使い方と方法を観測者全員が理解し安定して観測できるようにする。古いデータを計画的に入力していく。児童たちなりに記録を読み取り、考察とまとめを行う。

Ⅴ　研究第２年次の活動計画

１　気温、降水量、フェノロジー観測の、継続、考察
２　過去のデータの入力